

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」武蔵新城校		
○保護者評価実施期間	2025年11月 1日		～ 2025年 12月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50名	(回答者数) 34名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	2026年1月1日に当事業所が開設10周年を迎えます。2015年1月1日に開設以来、同じ場所で10年もの間、無事に事業所運営を続けることができたことは、利用者保護者様、地域の方々、関係機関の方々のご理解ご協力あってこそです。	利用者保護者様へは、誠実な気持ちをもって対応し、ていねいな支援を提供することを心がけています。 地域のなかでは、自治会に加入することで地域コミュニティへの関わりをもっています。 関係機関各所とは、相互に連絡を取り合い、情報を共有することで連携をはかっています。	利用者保護者様へは、今後もより手厚い支援を提供することで、よりよい毎日を過ごしていただきたいと思います。 地域では、平常時はもちろん非常時にも協力しあえるような関係をつくっていきます。 関係機関と連携をより密にし、セーフティーネットの一部としての役割を果たすことをめざします。
2	個別療育を基本としています。1回あたり45分間、一人の児童に一人の指導員がついてともに活動します。活動終了後は、その都度保護者様へのフィードバックもおこないます。	1対1でお子さんの言葉をよく聞き、表情や行動をこまかに観察します。お子さんの小さな変化を見逃さずに、必要なサポートをおこないます。フィードバックをおこなうことで、情報共有や、子育ての援助につなげています。	個別活動をベースとしつつ、集団療育が実施できる見込みがあるときは、実施する方向で考えていきます。個別活動と集団活動の組み合わせはタイミングを見計らって提案していきます。

3	職員間での情報共有や意見交換の場として、対面でのミーティングを欠かさずおこなっています。職員が出勤していない日の情報についても把握できるように、データ上の情報共有システムを構築し、活用しています。	対面でのミーティングでは、一人ずつの発言機会を設けています。職員全員から多面的に情報を集めることと、職員一人ひとりが意見を出せる環境づくりをねらいとしています。データ上の情報共有システムも活用して、引き継ぎや連絡の漏れを防ぐようにしています。	ミーティングでの綿密な打ち合わせや、情報共有システムでのやり取りなどが支援の質の向上につながると考えています。これからも手間ひまを惜しまず、根気よく続けていきます。
---	--	---	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル等の策定や安全計画の策定はできているものの、事業所から保護者様への周知が十分ではありませんでした。	保護者様へお知らせする内容が多岐にわたり、分量も多く、保護者様にとってわかりやすい情報になっていなかったことがひとつの要因かと考えます。もうひとつは、保護者様への伝達手段が少なかったことが要因かと思われます。	保護者様にとって周知の内容がわかりやすいように工夫することが必要かと思われます。今年度は、事業所で活用できるSNSを増やしたので、今後は保護者様への伝達手段としてうまく用いていきたいと考えています。
2	保護者様が参加できる研修等についての情報提供はおこないましたが、保護者様が参加できる研修等を当事業所が主体となって提供する機会は多くありませんでした。	ひとつの事業所の力や情報だけでは、保護者様が参加できる研修等の開催はなかなかむずかしいと考えています。当事業所を取り巻く地域資源とのつながりが薄いことや、情報不足などが要因にあるかと思われます。	地域資源の情報を集め、都市部に立地する好条件をいかして、ネットワーク軽くつながっていききたいと思います。当事業所が持っている力と地域資源との力を合わせて、保護者様が参加できる研修等を開催できるよう、前向きに取り組みたいです。
3	お子さんの併行利用や移行に向けた支援については、一部おこなってきましたが、併行利用先や移行先との間で、支援内容等の情報共有や相互理解は十分にはできていませんでした。	併行利用先や移行先との連絡をとり、関係性を築いて連携をはかっていくのは、限られた時間のなかで苦労するところがあります。	まずは地域の連絡会などをうまく活用して、併行利用先や移行先の担当の方々とコミュニケーションをはかっていききたいと思います。保護者様へもご協力をお願いしていきたいと思っています。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 　　こどもサポート教室「きらり」武蔵新城校

公表日 　　2026年　2月　14日

利用児童数 50名

回収数 34

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 　こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	7	1	0	子どもの年齢や体の大きさ、障がいタイプにより変わると思います。	活動スペースの広さには限りがありますので、お子さんに合わせて支援の内容ややり方を調整しています。
	2 　職員の配置数は適切であると思いますか。	32	2	0	0		法定配置数を守っています。職員の配置が変わるときには、今後も、お知らせをいたします。
	3 　生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	7	0	1	体の大きい子どもが動くとパーテーションだけではあぶないかも。声は何も防がないので感覚過敏さんには配慮にならないかも。	支援中はお子さんに声をかけながら安全確保につとめています。声の大きさの調整や、イヤーマフを着けるなどの協力をお願いすることもあります。
	4 　生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	1	0	0	私の子どもにとっては十分です。	毎日の清掃で衛生を保ち、心地よく過ごせる空間づくりを心がけています。
適切な 支援の 提供	5 　こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	1	0	0	個別の課題に応じて必要な支援を考えて活動に取り入れてくださるのでとてもありがたいです。子どものやりたいことを尊重しつつも、目標を立てた内容をしっかり取り入れてくださいます。	ありがとうございます。個別療育のよさを生かし、それぞれのお子さんに合わせた支援を提供したいと考えています。
	6 　事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	0	0	0		公表しているプログラムについて、適正であるかを適時検証していきたいと思えます。
	7 　こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	32	2	0	0	ニーズを客観的に分析（特に保護者）できるものだろうか。	保護者様との面談において、お話をうかがいます。お子さんに直接うかがうこともあります。
	8 　放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31	2	0	1	ニーズを客観的に分析（特に保護者）できるものだろうか。	保護者様との面談において、お話をうかがいます。お子さんに直接うかがうこともあります。事業所のほうの理解や対応が不十分なときは、あらためてお話をうかがわせていただきます。
	9 　放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1				サービス担当者会議をひらき、支援内容についての確認や検討をおこなっております。
	10 　事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33	1	0	0		お子さんの様子や成長の具合をみて、活動プログラムの内容や実施期間を調整しています。
	11 　放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	6	15	10	とくに必要ないと思う。	現在は実施していません。お子さんや保護者様からのご要望がありましたら、検討させていただきます。
保護者 への 説明等	12 　事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33	1	0	0		契約時にていねいにご説明するよう心がけております。ご不明な点がありましたら、説明させていただきます。
	13 　「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	31	2	0	1		ご説明不十分な点がありましたら、いつでもお申し出ください。あらためてご説明をさせていただきます。
	14 　事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	9	6	5	悩んでいることがあると、時間を割いて相談に乗ってくださり、本当に心強いです。相談すると関わり方などアドバイスをおしえていただけるのでありがたいです。ぜひ、意見交換会をお願いします。	情報提供やご相談などの家族支援は随時おこなっています。今年度は、福祉型カレッジ説明会を実施しました。意見交換会などについても、前向きに検討させていただきます。
	15 　日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	33	0	0	1	いつも子どもの小さな変化や子どもだけでなく、保護者が感じている困り感にも寄り添ってくださいます。	お子さんについての情報を保護者様と共有するよう努めています。
	16 　定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	3	1	1		現在は、面談や子育てに関する助言等を随時おこなっています。定期的に行えるようにしたいと思っております。
	17 　事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	33	0	0	1		不十分な点がありましたら、ご遠慮なくお申し出ください。
18 　父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	10	11	9	保護者同士の交流は無くてもよいと思います。	今年度実施した福祉型カレッジ説明会について好評いただきました。今後も実施の折にはご案内いたします。きょうだい同士の交流の機会を一部提供しております。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	29	3	1	1	お子さんや保護者様からのご相談やお申し入れには、できるかぎりの対応をさせていただきます。そのことについてお知らせもわかりやすくしていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	30	2	0	2	わかりやすく伝え、よく聞くようにしています。ピクトグラム（絵文字）やイラストで情報を視覚化しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	3	0	5	今年度は、Instagramを開始してSNSでの発信をひとつ増やしました。同じ内容を教室にも掲示しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30	2	0	2	今後も個人情報の取扱いには細心の注意を払っていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	2	0	6	各種マニュアルは策定しております。保護者様へわかりやすいかたちでお伝えしたいと思います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	1	0	11	防災訓練を毎月実施しています。事業所からの報告が保護者様へ行き届くようにしていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	1	0	3	安全計画を作成し、研修や訓練を受けております。これからも保護者様に報告をいたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	27	2	0	5	速やかに連絡し説明をすることを心がけております。不十分な点がございましたら、恐縮ですがお申し出ください。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	0	0	1	お子さまの安心と安全を第一に考えております。今後も変わらず、安心と安全を大切にしていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33	0	0	1	通い始めて何年か経ちますが、毎回とても楽しみにしています。先生方のことも大好きみたいです。
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	1	0	1	本人への理解や的確な支援、また保護者からの相談にもアドバイスいただき、大変感謝しております。／利用して、10年目、高校生になり、先生と一緒に、勉強の内容を考えたり、成長を感じます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」武蔵新城校			公表日 2026年 2月 14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		各支援スペースをパーティションで分けけて個別のスペースを確保しています。	児童それぞれの特性と支援内容に合わせて個別療育ができるよう環境設定を心がけていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		全体の状況を把握しつつ、児童の状態をよく観察して、児童に適切に関わるようにしています。	法定配置数を遵守しています。業務上は職員数増が望ましいため、会社(クラ・ゼミ)とも都度相談をしております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		個室ではなく、セミオープンな空間を提供しています。そこで、できるかぎり児童の特性にあわせた配慮をおこなっています。	バリアフリー化は施設の構造上難しいのが現状です。教室レイアウトの工夫など可能な範囲で環境を整備を続けていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日清掃をおこなって衛生を保ち、児童にとって心地よい活動環境であるようにしています。	心地よい活動環境を提供できるよう、今後も教室の整備を継続していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		個別対応専用の部屋はありませんが、他の利用児童と隔てる必要がある場合は、ドアのある相談室を支援で提供することがあります。	状況に応じて、可動式のパーティションを用いて個別の空間を提供できるよう、臨機応変な対応を心がけていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		月ごとに目標を立て、その目標に向かって業務をおこなっています。	職員全員で振り返りをおこない、つねに業務の改善を進めていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		評価表の結果をもとに会議を開き、保護者様の意向を把握するようにしています。	今後も、保護者様の意向を踏まえて業務改善に努めていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		職員一人ひとりが意見を出せるように、一人ひとりの発言機会を設けています。	一人ひとりの職員が安心して意見を出せるような職場環境を維持していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	神奈川県による第三者評価項目を基に、事業所内で定期的に独自の評価活動を実施しています。	定期的な外部評価はおこなわれていないため、保護者様からの声を真摯に受けとめ、業務に反映していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		法人内研修の機会が確保されています。外部研修にも出向いて職員の資質向上につとめています。	常に向上心をもって、専門的な知識や技術、最新の情報を更新していきたいと考えています。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムの作成と公表をおこないました。	支援プログラムについては、現状をふまえての見直しをして最適化をめざします。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		支援時には児童の様子を観察し、保護者様からは日頃の様子をうかがい、適切にアセスメントをおこなうようにしています。	日々の変化を見逃さないよう、児童の様子をいねいに観察していきます。保護者様との情報共有も大切にしていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者だけでなく、児童に関わりを持っている全職員からの視点を基に作成しています。	複数の視点からの分析によって、児童の姿を立体的に浮かびあがらせ、理解を深める努力を続けます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援支援計画を職員間で共有しています。随時計画を確認しながら支援を実施しています。	計画に沿った支援ができていないかの検証をおこたることなく続けていくよう努めます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		法人が定めたアセスメントツールを使用しています。職員による日々の行動観察をもとに児童の状況確認もしています。	当事業所を利用している際の姿だけでなく、学校や家庭での姿についても、把握を進めたいと考えています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		それぞれの児童の支援に必要な項目を設定し、支援内容を具体的に設定するようにしています。	個別を中心にした支援計画のため「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」が主となりますが、可能な範囲で「地域支援」にも触れていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		サービス担当者会議の際に、職員全員で意見を出し合い、チームとして立案するようにしています。	常にチーム支援を念頭に置くよう、これからも心がけていきます。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムの見直しを定期的にするようにしています。必要に応じて、児童や保護者様にも相談をしています。	児童の成長や変化にあわせて、活動プログラムの見直しを柔軟におこなっていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童どうしの支援目的や特性、年代が適合して、集団活動が実施できる見込みがあるときには、実施する方向で考えています。	個別活動と集団活動との組み合わせは、タイミングを見計らって提案したいと考えています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		職員全員でのミーティングを毎日支援開始前におこなっています。その際、支援内容や役割分担を確認します。	ミーティングでの綿密な打ち合わせが支援の質の向上につながると考えています。これからも続けていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には毎日欠かさず、職員全員で振り返りをおこなっています。気づいた点をその日のうちに共有しています。	その日のうちに振り返り、情報共有することの大切さを実感しています。継続して取り組んでいきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		児童の様子や支援の内容などについての記録をしています。記録をもとに、支援の検証や改善に努めています。	支援記録は、児童の成長や変化の記録でもあります。的確にポイントを押さえて記録していくようにしていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		最長でも6か月以内に実施し、現状に即した計画づくりをしています。	今後も定期的に、個々の状況に即したモニタリングをおこなっていきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		児童一人ひとりのニーズに合わせて、4つの基本活動をいくつか組み合わせ合わせて支援をおこなっています。	4つの中の「地域交流の機会の提供」については、活動場所を教室内としていることから、実現がむずかしいところです。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		年齢や発達段階に合わせて、小さな自己選択をする機会をつくり、自己決定の練習を積めるようにしています。	日頃から自己決定の練習を積み重ねることで、自分で考え自分で決める自己決定の力をつけてもらいたいと考えています。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達管理責任者や支援の担当指導員が参加しています。	今後も必要に応じて参加していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		市内の療育センターや地域みまもり支援センター、保育園、幼稚園、学校などとの連携があります。	各機関と継続的に連携をはかっているよう連絡や情報共有、協力を今後も引き続きしていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	年間計画や行事予定、下校時刻などは、保護者様からうかがうようにしています。	当事業所では児童の送迎をしていないため、学校からの下校に関する連絡調整はありません。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者様のご希望や必要性に応じて対応しています。	保育園や幼稚園などとの情報共有は重要ですので、事業所から保護者様に提案していこうと考えております。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	今年度は、該当する児童がおらず、そのような機会がありませんでした。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		川崎市中央療育センターや川崎市発達支援センターなどと連携をはかることがあります。助言をいただくこともありました。	関係機関との連携や助言をいただくことで、よりよい支援を提供したいと考えています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	今年度は、そのような機会がありませんでした。	1時間以内の個別療育を基本としているため、そのような活動はむずかしいところです。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	自立支援協議会への参加はありませんでした。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援終了時には、保護者様へのフィードバックをおこない、児童の発達の状況や課題についてのお話もしています。	保護者様との共通理解をもつことはとても大切だと考えています。フィードバックや面談を今後も続けていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者様が参加できる研修についての情報提供をおこないました。	情報提供の機会を増やしていきたいと考えています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時とくに丁寧に説明するよう心がけています。	ご不明な点については、その都度ご説明をいたします。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児童自身や保護者様の意思を尊重して計画を作成するように心がけています。	計画作成時をはじめ、随時児童自身や保護者様の意思を確認するよう努めていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		放課後等デイサービス計画を示しながら保護者様への説明を行ったうえで、相談や調整をおこない、同意をいただいています。	今後もこれまで通りに丁寧に対応していきます。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		支援のフィードバック時や面談（家族支援）の機会に、保護者様への助言や支援をおこなっています。	現在は、面談の機会は随時ですが、今後はそれ以外にも定期的な機会を提供したいと考えています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		中高生の保護者様向けの説明会を実施しました。きょうだいご利用の方には、きょうだい同士で活動をして交流をする機会を設けました。	今年度は、中高生の保護者様向けの説明会でしたが、今後は中高生以外の年代の保護者様にも参加していただける機会を提供したいと考えています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情について迅速に対応する体制をとっています。苦情受付窓口も設置しています。	今後もご相談や申し入れについては、迅速かつ適切な対応をしていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSを活用して、活動内容や教室予定、各種お知らせなどを発信しています。あわせて教室にも掲示しています。	できるだけ多くの児童や保護者様に情報をお届けできるように努めます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時の「個人情報に関する同意書」に基づいて、個人情報の取扱いに十分に注意を払っています。	今後も個人情報の取り扱いについては細心の注意を払うように心がけていきます。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ピクトグラム（絵文字）やイラストをつかってトイレや教室の場所をわかりやすくしています。	「やさしい日本語」の考え方を取り入れて、わかりやすい表記や表現をつかって、教室からのお知らせを発信しています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の方々を招待する行事は実施していません。	地域の自治会に加入していることで地域コミュニティへの関わりを続けていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定しています。職員は、研修・訓練の機会を設けて実施しています。	周知の内容をわかりやすいよう工夫し、できるだけ多くの保護者様へ行き届くようにしていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備えて、毎月1回訓練をおこなっています。	非常災害時に臨機応変に適切な対応ができるよう、災害時対応のスキルをみがいていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		あらかじめ、服薬や持病に関する情報提供をお願いしています。	一度提供していただいた情報を随時更新して最新の状態を保てるように努めます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			食事の提供はおこなっておりません。アレルギーの有無に関しては、保護者様から情報を提供していただいています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成したうえで、安全管理に関わる研修や訓練に参加しています。	安全管理に関わる研修や訓練には、職員全員が参加して、知識や技術の向上をはかります。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	防災訓練実施の報告をおこなっています。非常時の安全確保の観点から、室内履き持参推奨のお知らせをしています。	報告の内容をわかりやすいよう工夫し、できるだけ多くの保護者様へ行き届くようにしていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの記録をまとめて事例集として、職員間で共有して危機管理に努めています。	今後も継続して取り組んでいきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回以上、虐待防止・人権擁護の研修を受けています。	職員の研修の機会を確保し、虐待防止・人権擁護に関する意識を高めていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に身体時拘束の必要についてご説明し、身体拘束の必要がある場合は、必ず個別支援計画に記載します。	身体拘束についての認識を職員間で統一したうえで、支援にあたります。	